令和４年度第１回考古学講座
「副葬された大刀と古墳時代のかながわ」

令和４年５月７日
伊東はるか

1.古墳時代の副葬品
副葬品とは？…被葬者の遺骸に副えて置く道具類。
副葬品の変化
・古墳時代前期：青銅鏡、腕飾り形の石製品、玉類、鏃(銅、鉄)など
→「鏡」を重視
→三角縁神獣鏡などを介した繋がり
→ヤマト政権による配布
・古墳時代中期：甲冑(短甲や冑)、刀剣、鉄鏃、馬具、装身具など
→武器・武具が増加
→中期後半になると、帯や冠などの装身具が増加
・古墳時代後期：装身具、刀剣、玉類、馬具、甲冑、須恵器など
→装飾付大刀の副葬が増加
→耳環や冠、帯など様々な装身具
→金銅装の道具
→終末期になると、銅鋺など仏教系の道具

2.副葬された大刀
①古墳時代の刀剣類
・刀子、大刀(直刀)、蕨手刀、剣
→象嵌
→装飾付大刀

②装飾付大刀とは？
・金・銀・銅などで装飾を加えた大刀を指す。
・4～5 世紀に舶来品が受容され、6 世紀～7 世紀初頭に盛行。
・身分を表す道具、特定の氏族や役職と関係が深い道具と指摘される。
・様々な種類の装飾付大刀がある
→三累環頭大刀、単龍・単鳳環頭大刀、双龍・双鳳環頭大刀、獅噛文環頭大刀、素環頭大刀、三葉環頭大刀
→頭椎大刀、圭頭大刀、円頭大刀、方頭大刀、鶏冠頭大刀
→捩じり環頭大刀、楔形大刀

③単龍鳳・双龍環頭とは？

・装飾付大刀の中でも、大刀の柄頭部分に環状の飾りを付け、その環の中に龍や鳳凰を施した大刀。柄頭部分だけではなく、鞘部全体にも装飾が施される。意匠ごとに配布の様相や出土数が異なることから、使い分けがされていたと考えられる。

・受容当初は朝鮮半島からの舶来品が中心だったが、比較的早い段階で、日本国内での製作が開始したと指摘されている(持田 2006)。

・意匠ごとに型式が組まれており(大谷 2006 他)、同一型式や同笵品の刀が東日本と西日本の距離の離れた場所から出土することから、限られた工房で製作され配布されたと指摘されている(穴沢 1979)。なお両者の中間地点であり製作・配布をすることができる規模の集団ということで、配布には畿内の政権や特定の氏族が関係していると考えられている(穴沢 1979, 1986)。

①単龍・単鳳環頭

・単龍環頭大刀：6 世紀中ごろから 6 世紀末まで確認される。単鳳よりも数は少ないが、全国各地で出土している。同笵品は少ない。百済武寧王陵出土の単龍環頭が、日本で出土する単龍の祖型とされる。

・単鳳環頭大刀：単龍環頭と同時期に確認される。量産化されており、同笵資料も多く、全国的に配布される(新納 1983)。

②双龍環頭

6 世紀前半に舶来品がもたらされ、一度確認されなくなり、560 年前後から 7 世紀まで見られる(時期：松尾 2001)。6 世紀後半以降は、国内で量産化される。東海地方では、TK209 型式併行期以降、それまで装飾付大刀があまり見られない地域から出土するという特徴が指摘されている(岩原 1998)。双鳳環頭大刀も存在する。

3. 古墳時代の神奈川

①古墳時代の神奈川

・6 世紀末頃の神奈川は…

→現在の川崎市全域・横浜市の一部⇒武蔵国造

→上記以外の範囲⇒師長国造、相武国造、鎌倉別(平塚市博物館 2001)

②当時の状況

・装飾付大刀の分布状況

→単龍・単鳳環頭大刀の分布状況

⇒単龍＋単鳳、単龍＋双龍

→双龍環頭大刀の分布状況

→その他の分布状況

⇒単龍・単鳳が足柄平野周辺で出土…師長国造との関係

⇒単龍・双龍が三ノ宮・比々多周辺(現・伊勢原市)で出土…相武国造との関係。意匠の組み合わせが異なり、師長国造との区別化か。

⇒装飾付大刀の様相が異なる…鎌倉別。

・古代へつながる古墳時代終末期の状況

4. 最後に

・大刀からみた神奈川の古墳時代について

【用語集】

・威信材…所持者の権威や身分を示す道具。
・同笵品…同じ型を用いて製作された道具。
・金銅装…銅に金箔や鍍金技法を用いて金メッキしたもの。
・様々な種類の装飾付大刀…柄頭部分に装飾が施され、その形状の違いにより種類分けされている。
・環頭大刀…外来系の大刀。柄頭に環状の飾りが施される。
・捩じり環頭大刀、楔形大刀…倭系の大刀。朝鮮半島からもたらされた装飾付大刀の影響を受け、装飾を施すようになった。大刀型の埴輪としても確認されている。
・象嵌…地の部分に彫り込みを入れ、金や銀で文字や文様を施す、金工細工の一つ。刀の鍔や円頭柄頭、鏶部分に施されることが多い。

【参考文献】

明石新 2001「相武国から相模国へ」『相模国の古墳-相模川流域の古墳時代-』平塚市博物館

穴沢咏光・馬目順一・中山清隆 1979「相模出土の環頭大刀の諸問題」『神奈川考古』6　神奈川考古同人会

穴沢咏光・馬目順一 1986「日本における龍鳳環頭大刀の製作と配布 -一つの試論-」『考古学ジャーナル』№266　ニュー・サイエンス社

穴沢咏光・馬目順一 1986「単龍・単鳳環頭大刀の編年と系列 -福島県伊達郡保原町愛宕山古墳出土の単龍環頭大刀に寄せて-」『福島考古』27　福島県考古学会

穴沢咏光・馬目順一 1988「金銅装単鳳環頭大刀の柄頭破片」『海老名本郷』Ⅱ　本郷遺跡調査団

稲村繫 2005「かろうと山古墳の発掘調査」『市史研究　横須賀』4　横須賀市

岩原剛・松尾充晶・徳江秀夫・川原秀夫・平石充　2005「装飾付大刀と後期古墳―出雲・上野・東海地域の比較研究」『島根県古代文化センター調査研究報告書』31　島根県教育庁古代文化センター

大阪府立近つ飛鳥博物館 1996『平成 8 年度秋季特別展 金の大刀と銀の大刀』大阪府立近つ飛鳥博物館

大谷晃二 1999「上塩冶築山古墳をめぐる諸問題」『上塩冶築山古墳の研究』島根県古代文化センター調査研究報告書 4　島根県古代文化センター

大谷晃二 2006「龍鳳環頭大刀研究の覚え書き」『財団法人大阪府文化財センター他 2004 年度共同研究成果報告書』

柏木善治 2008「副葬大刀からみた相模の地域像」『神奈川考古』44　神奈川考古同人会
柏木善治 2011「6・7 世紀における相模地域の動態-三ノ宮古墳群を手掛かりとして-」『総研大文化科学研究』7　総合研究大学院大学文化科学研究所
神奈川県教育委員会 2017『平成 29 年度　かながわの遺跡展　群集する古墳』神奈川県教育委員会
菊地芳朗 2003「装飾付大刀からみた古墳時代後期の東北・関東」『第 8 回東北・関東前方後円墳研究大会後期古墳の諸段階』東北・関東前方後円墳研究会
金宇大 2011「装飾付環頭大刀の技術系譜と伝播」『古文化談叢』66　九州古文化研究会
金宇大 2013「百済・加耶における装飾付大刀の製作技法と系譜」『文化財と技術』5　工芸文化研究所
金宇大 2017『金工品から読む　古代朝鮮と倭』京都大学学術出版会
国立歴史民俗博物館 2016「金鈴塚古墳のかがやき」『歴博フォーラム』
かみつけの里博物館 2019『第 28 回特別展飾り大刀　武器からみた古墳時代のぐんま』かみつけの里博物館
金宇大・若狭徹・青笹基史・角正涼子・黒石哲夫・松尾充晶 2019『刀剣が語る古代国家誕生-資料編-』古代歴史文化協議会
白石太一郎編 2005『古代を考える終末期古墳と古代国家』吉川弘文館
田尾誠敏 荒井秀規 2017『藤沢市史ブックレット 8　古代神奈川の道と交通』藤沢市文書館
田尾誠敏 2018「相模地方の国造・在地首長と古墳」神奈川の遺跡展示講演会資料
滝瀬芳之 2011「古墳時代後・終末期における大刀拵の様相」616　考古学ジャーナル
豊島直博 2001「古墳時代後期における直刀の生産と流通―近畿地方を中心に―」48,2　考古学研究
豊島直博 2017「双龍環頭大刀の生産と国家形成」『考古学雑誌』99 巻 2 号　考古学雑誌
新納泉 1982「単竜・単鳳環頭大刀の編年」『史林』65,4　三田史学会
新納泉 1983「装飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』30,3　考古学研究会
野垣好史 2006「装飾付大刀変遷の初段階」『物質文化』82　物質文化研究会
橋本英将 2006「「折衷系」装飾大刀考」『古代武器研究』7　古代武器研究会
平塚市博物館 2001『相武国の古墳―相模川流域の古墳時代―』平塚市博物館
土生田純之 2012『古墳』吉川弘文館
福島雅儀 2008「古代装飾付大刀の政治的役割」92,2　考古学雑誌
松尾充晶 2001「装飾付大刀の評価と諸問題」『かわらけ谷横穴墓群の研究』島根県教育委員会・島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター
松尾充晶 2003「装飾付大刀」『考古資料大観』小学館
向坂鋼二 1971「飾大刀について」『掛川市宇洞ヶ谷横穴墓発掘調査報告』静岡県教育委員会
持田大輔 2006「龍鳳文環頭大刀の日本列島内製作開始時期と系譜」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』4,25 号　早稲田大学大学院文学研究科
持田大輔 2006「倭装大刀の装飾化と半島系装飾大刀の導入」『古代武器研究』7　古代武器研究会
持田大輔 2011「古墳時代後期・終末期の装飾付大刀」616　考古学ジャーナル

【図版】

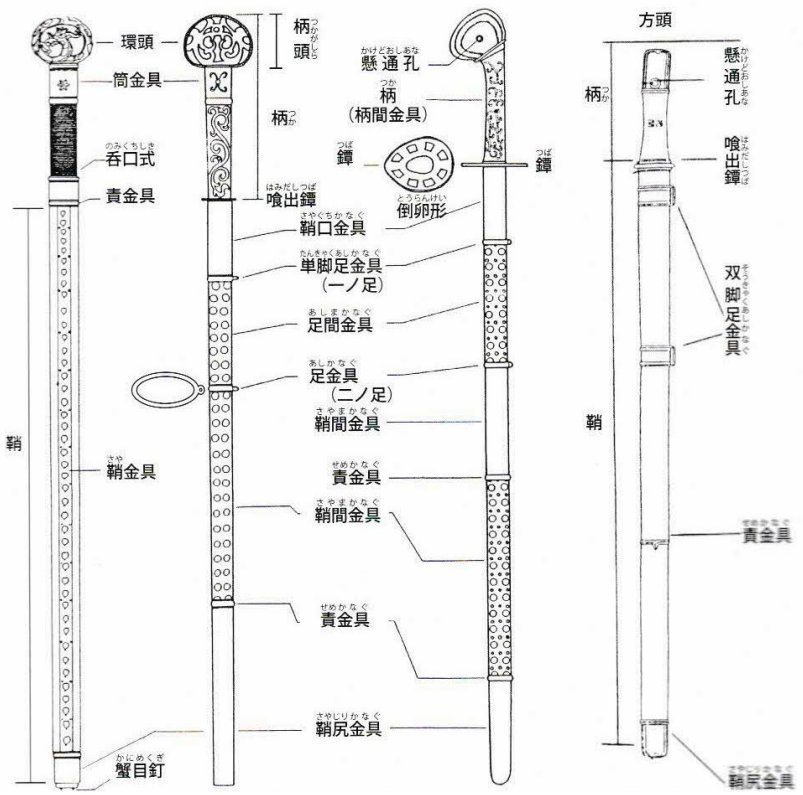

図１　装飾付大刀各部名称
（かみつけの里博物館 2019）

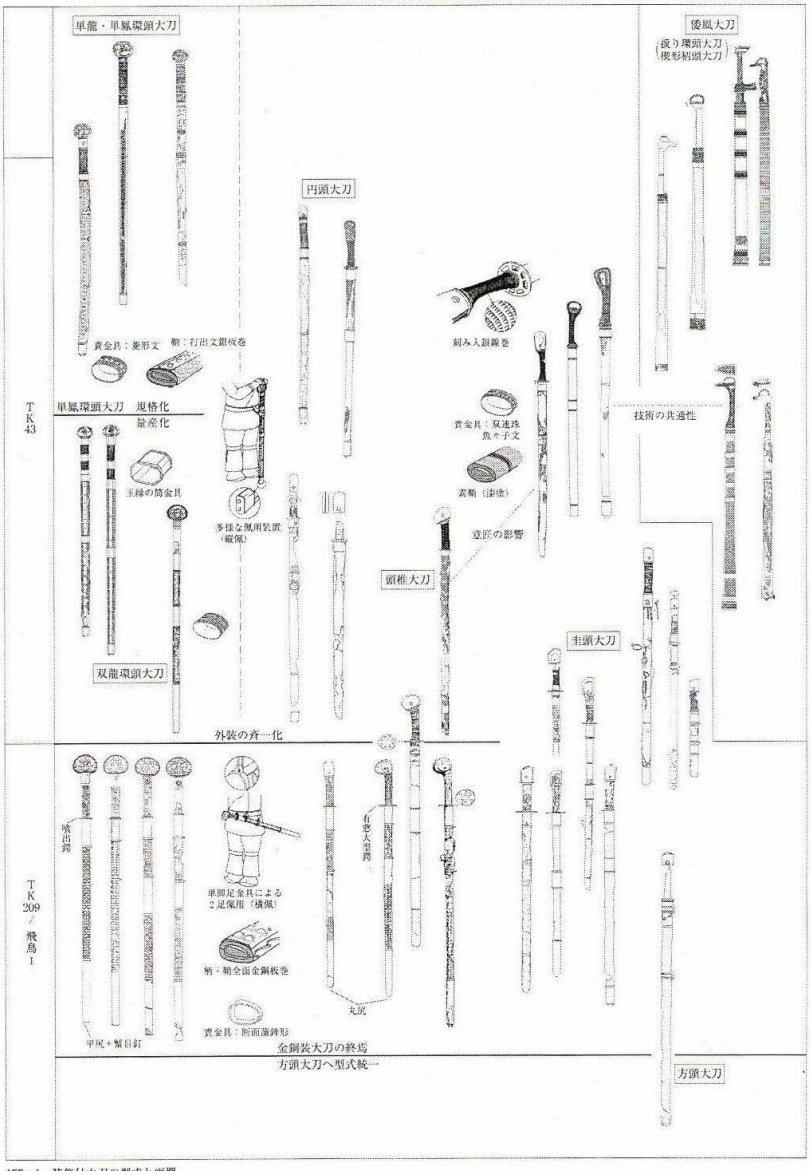

図２　装飾付大刀の変遷
（松尾充晶 2003）

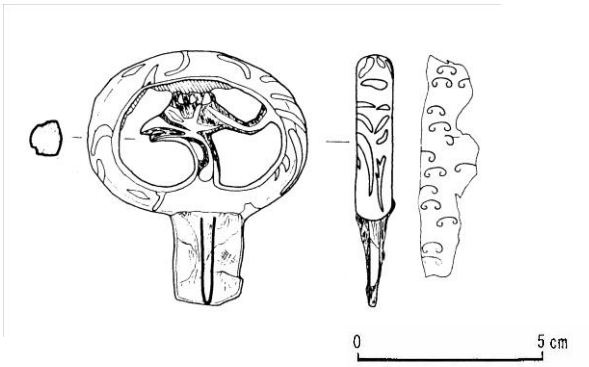

図 3　①塚田 2 号墳出土単鳳環頭
（穴沢咏光・馬目順一・中山清隆 1979）

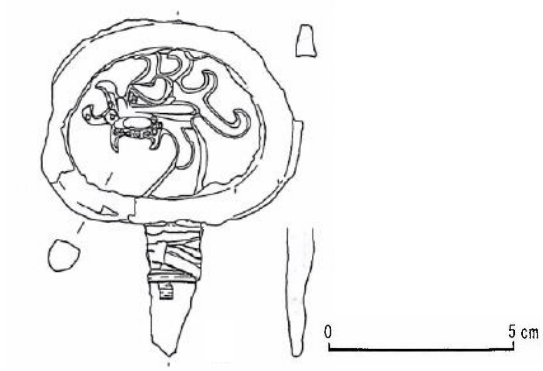

図 4　②黄金塚古墳出土単龍
環頭（平塚市博物館 2001）

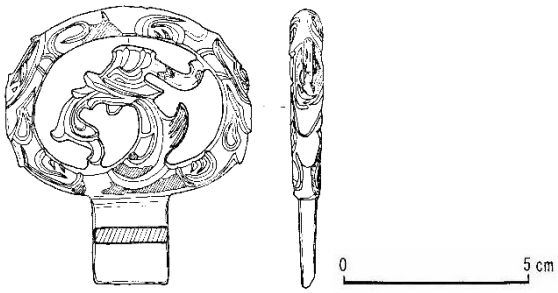

図 5　③栗原古墳出土単龍環頭
（穴沢咏光・馬目順一・中山清隆 1979）

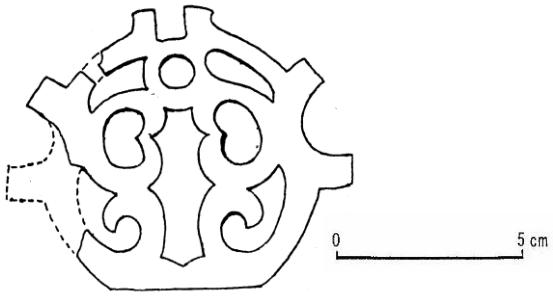

図 6　④御領原古墳出土双龍環頭
（穴沢咏光・馬目順一・中山清隆 1979）

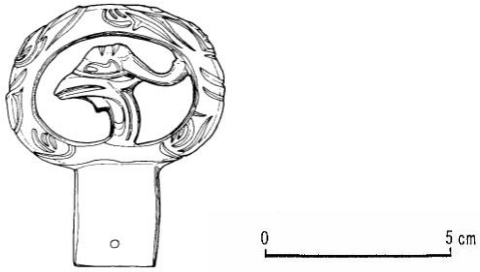

図 7　⑤海老名本郷出土単鳳環頭
（穴沢咏光・馬目順一 1988）

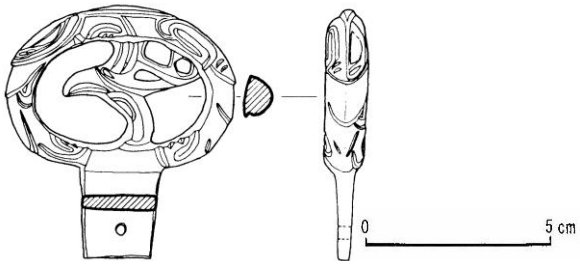

図 8　⑥川名新林右 2 号墳出土単鳳環頭
（穴沢咏光・馬目順一・中山清隆 1979）

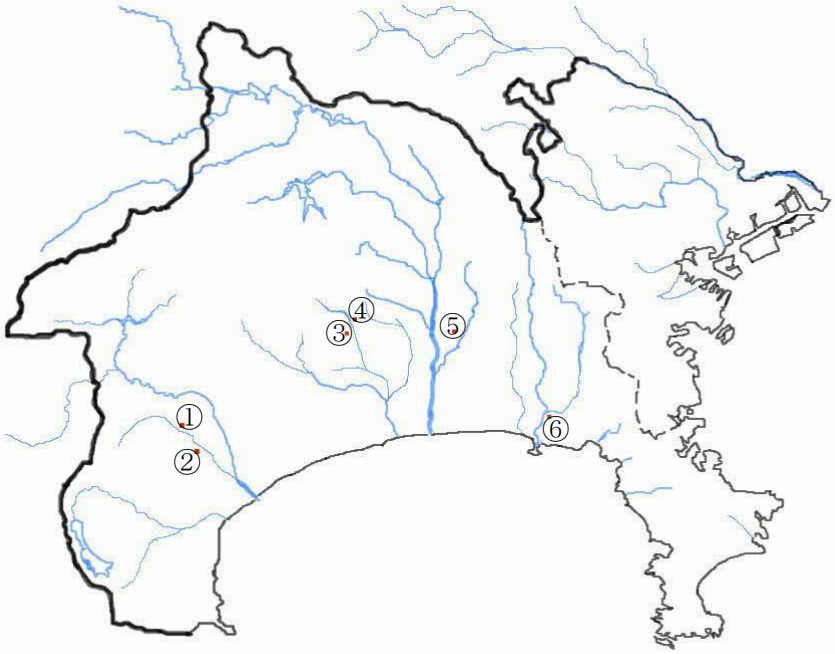

図 9　県内龍鳳環頭大刀出土地点

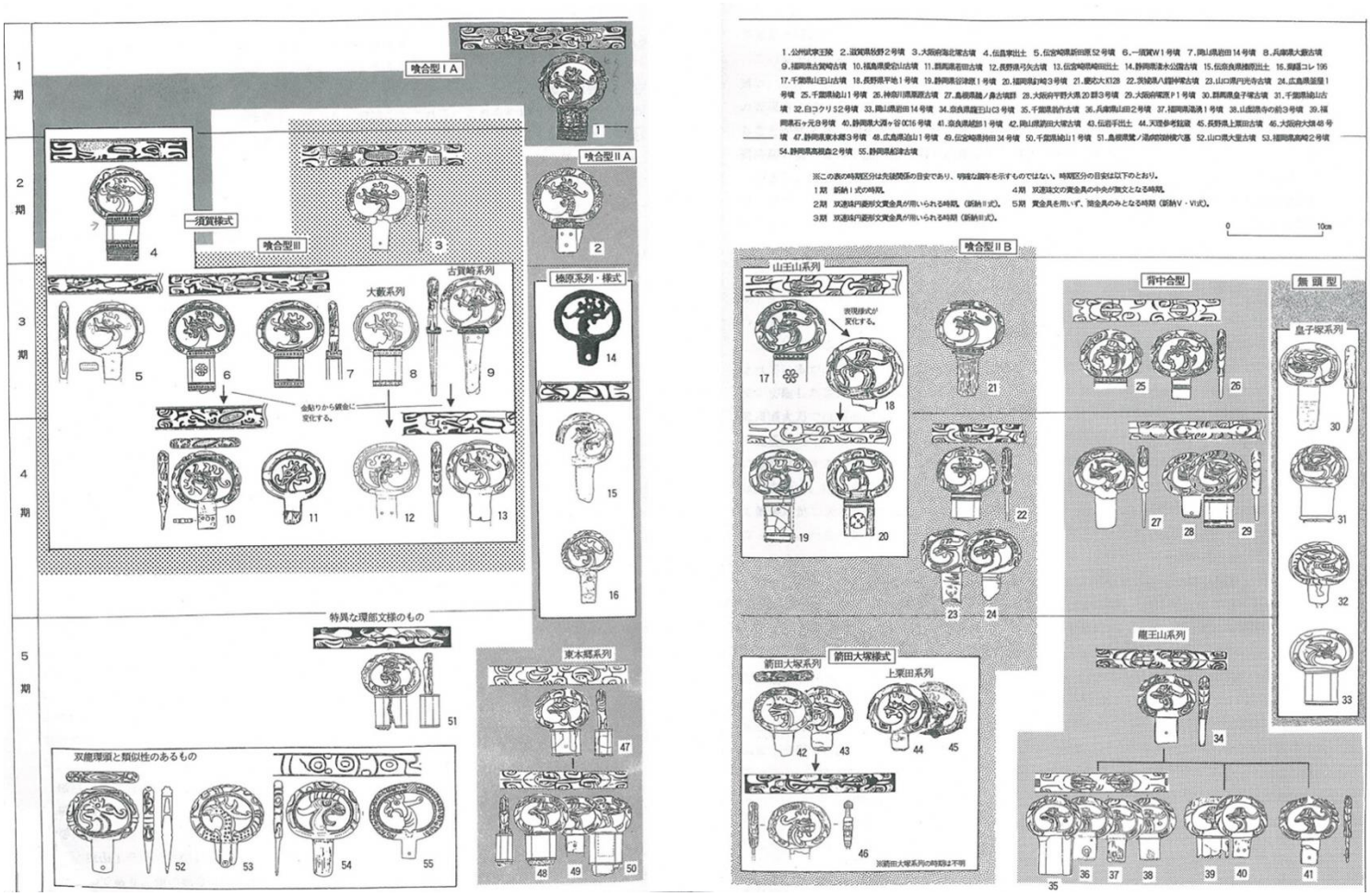

図 10　単龍鳳環頭の編年（大谷晃二 2006）

図 11　単龍鳳環頭大刀分布図（新納泉 1983）

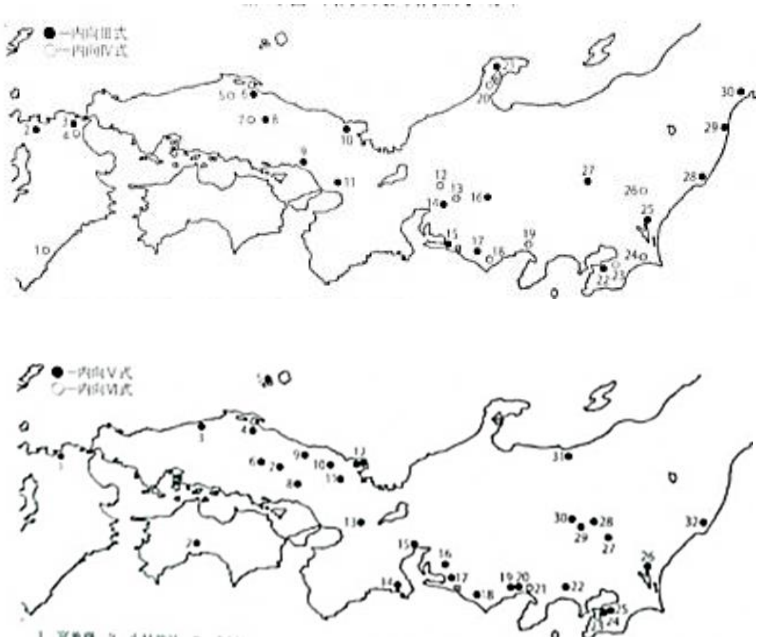

図 12　双龍環頭大刀内向・外向分布図（豊島直博 2017）

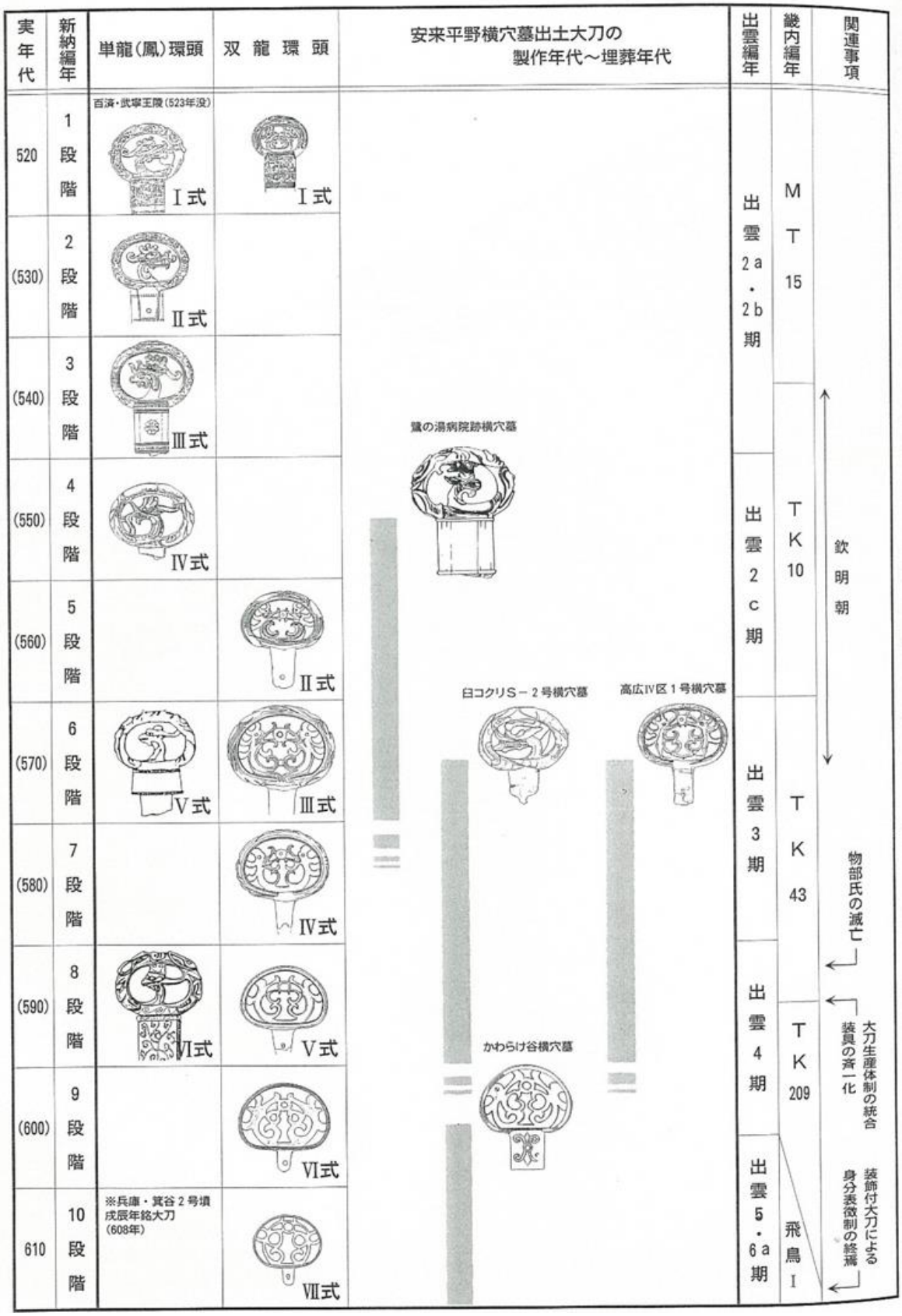

図 13　龍鳳環頭大刀の製作年代(松尾充晶 2001)

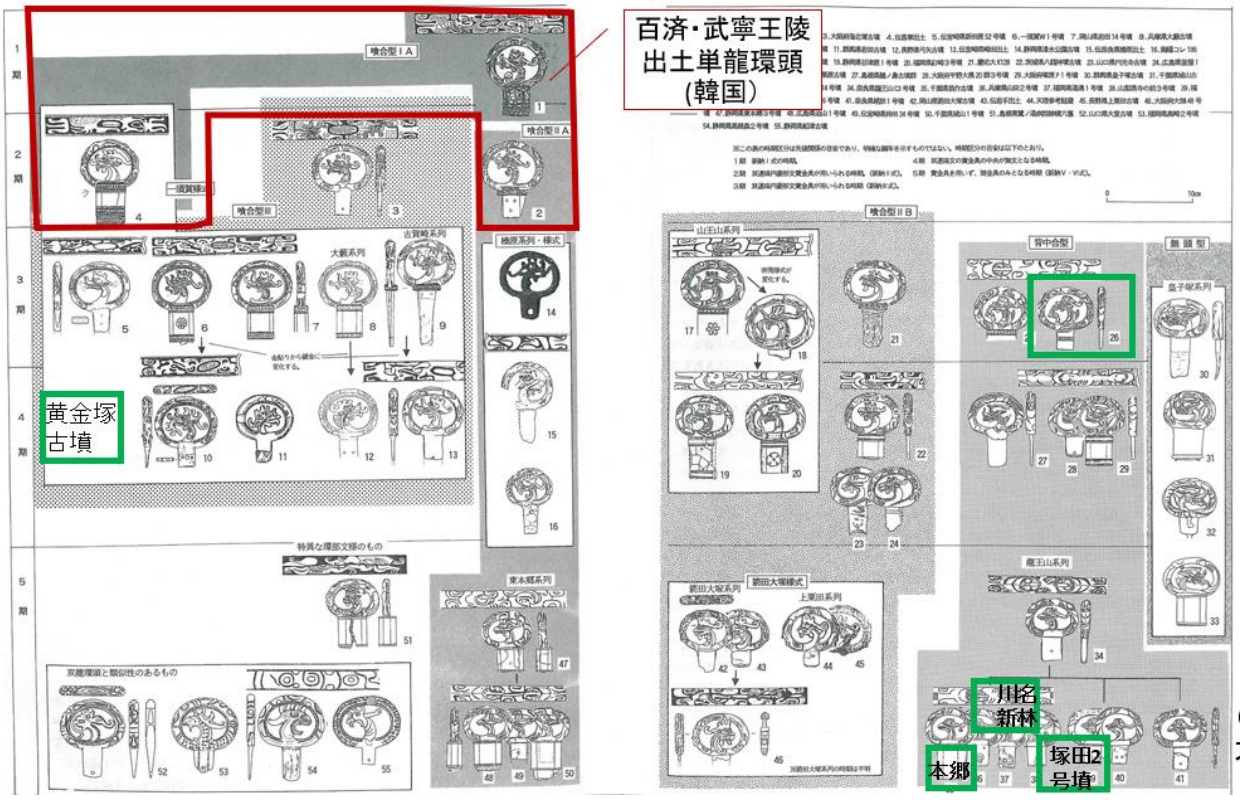

図 14　編年一部追記（編年：大谷晃二 2006）

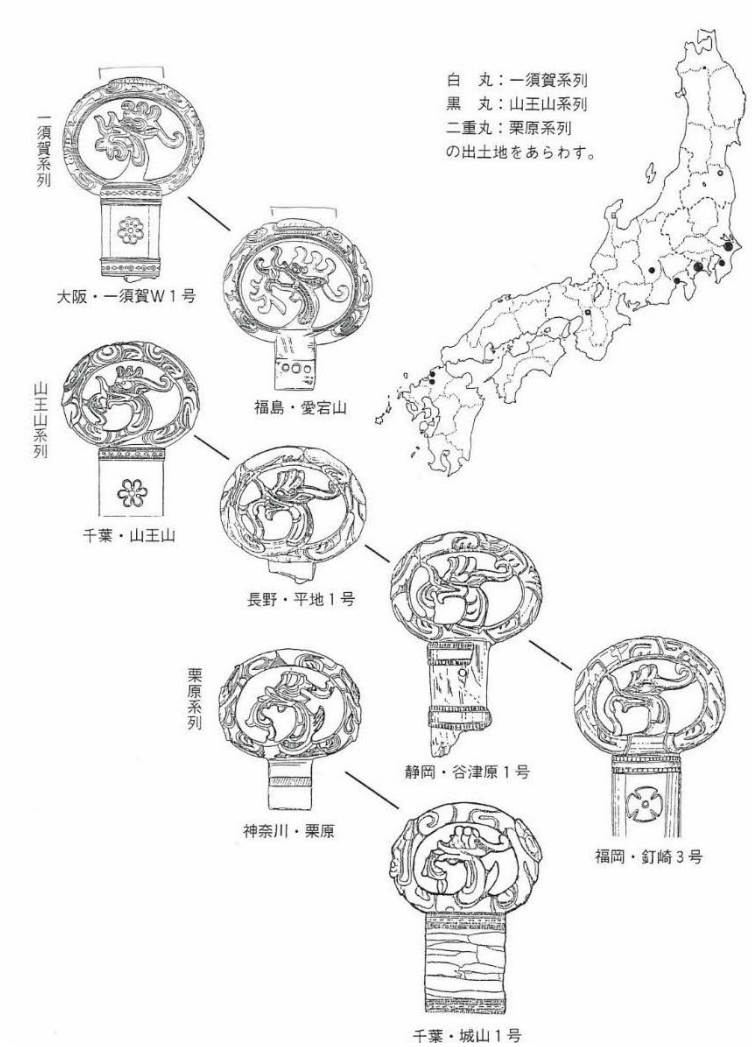

図 15　芝草を加えた単龍環頭系列
（穴沢咏光・馬目順一 1986）